

学校経営方針

1 学校教育を進めるにあたっての基本理念

－究極は未来の人間づくり－

背景

青少年の犯罪、児童虐待等の背後にみえる精神的背景は、罪を犯した当事者もかつては学校に在籍し教育を受けてきた人間である。彼らは、そこで何を感じて何に喜びを見い出してきたのであろうか。喜びを感じたのであろうか。人の悲しみを感じたのであろうか。もし、そういう経験がなかったとしたら不幸は、そこから始まっていたのではないか。

そこで、

「学校教育の作用は、現在の子ども達に、今生きている喜びを与えると共に、自分と社会の未来に、夢と希望と幸福を保証する営みであらねばならない。」

2 経営の基底

感動と発見と達成感を与える教育



基礎・基本の習得、特別活動の充実、道徳実践力の育成

★基礎基本・・・豊かで多様な個性は、基礎・基本の土台の上に初めて築きあげられるものである。学力もしかりである。基礎・基本を大事にした教育活動に取り組みたい。

★特別活動・・・学校の楽しさは、特別活動の充実によるところが大きい。教科等の学習で活躍できない子どもが、特別活動の領域で力を発揮する場合もある。特別活動の充実は、多方面から子どもの力を引き出す重要な領域である。工夫と豊かな経験をもとにした発想で取り組みたい。

★道徳的実践力の育成

道徳教育は全教育活動で行うことはもちろんであるが、道徳教育の土台は週1時間の道徳の時間である。この週1時間の道徳の時間で培う道徳実践力の積み重ねが、まさに将来の日本を背負っていく人材の育成となる。道徳的実践力の育成を主体とした授業に取り組みたい。

3 経営の方針

1) 学校の主人公は、子どもである。

- ①礼儀正しく、秩序ある学校を目指す。
- ②誰もが活躍できる場のある学校を目指す。
- ③基本的な生活習慣が身についた児童のいる学校を目指す。
- ④いじめは、人権侵害であるという認識に立ち、個性の開発・伸長及び情操を育む学校を目指す。
- ⑤馴れ合いにならない、適度な緊張感を持った学校を目指す。

2) 教職員は使命感を持って教育活動にあたる。

- ①学級経営が学校経営の基盤であるという考えにたち、学級経営の充実に努める。
- ②専門職の自覚を持ち、教育目標達成のために日夜研鑽に励む。
- ③子どもや社会の変化・変貌を見極め、創造的・弾力的な教育実践に励む。
- ④1時間の授業を大事にし、基礎学力の充実とわかる授業実践に励む。
- ⑤学校施設、設備等のよりよい環境を提供するように努める。
- ⑥子供の可能性を信じ、「人材有限、工夫無限」の精神で教育活動に励む。

3) 家庭・地域社会に開かれた学校づくりに努める。

- ①地域の伝統、行事、財産を守り、地域から学び地域へ働きかける教育活動を推進する。
- ②地域行事への積極的な参加を勧め、地域を愛し地域を大事にする精神の育成を図る。
- ③保護者、PTAとの連携を密に図る。
- ④外部の学校評価を生かしながら、一層地域に開かれた取り組みをする。

4 飛躍のキーワード

「検証」

今、実践していることが果たしていいのか。

これまでやってきたことが果たして適切であったのか。

教師の検証 子どもの検証

- 5 教育とは ほめることである
- 励ますことである
- 慰めることである
- 頷かせることである